横須賀日日新聞
YOKOSUKA NICHINICHI SHIMBUN
市民記者がつくる
発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 yokosuka@kanagawa-np.co.jp
神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル 0120-446-709. 1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1ヵ月3,189円
第41号
平成27(2015)年8月2日発行

INDEX

2 50回目はしょうぶ園
3 手作りの看板と守り神
4 お龍さんが住んでた

横須賀日日新聞　第41号
2015年8月2日

あなたが地域の主人公　4

テーマ：夏の主役、子どもたち
（自然の中で不便楽しんで）

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 4

夏の主役、子どもたち

横須賀の子どもたちは恵まれている。海に山に遊び場所がふんだんにある。首都圏でこれだけ多様な自然が身近にある環境はそうはない。

子どもたちが主役なら、脇を固めるのは子どもの健全育成に励むNPOだろう。「ケガと弁当は自分持ち」を合言葉によこすかプレーパークを運営する「よこすか思いっきり遊ぶ会」の兼尾由美子さんにお話を聞いた。

「児童公園のような暗黙のルールがある場所でしか遊んだことのない子どもたちが、ここでは泥んこになって遊びまくるんです。火をみたことがない子どもがたき火を経験する。野菜を食べられない子どもが畑で野菜を採る。テンションが上がります。小さなケガをしない方法も学びます。お父さんが大きなクラフトにはまったり、野外料理に夢中になるお母さんもいます。そうしているうちにいつの間にか日が暮れていくんです」

自然の中で不便楽しんで

子どもたちの間ではバーチャルな世界が拡大している。LINEなどの新しいコミュニケーションも広がっている。すべてを否定するわけではないが、顔を合わせて、ぶつかり合ってお互いを理解し合う夏を大切にしたい。

「三浦ふれあいの村」で海洋キャンプを教える関寛之さんは「自然の中で子どもたちに不便を楽しむ気持ちを持ってほしい。そこにあるもので何とかする、仲間と考える、そして遊ぶ。それがキャンプの楽しさです」と語る。

夏の主役は子どもたち。カヌーに挑戦＝三浦市初声町和田

私の所属するYMCAは、野外活動を通して子どもの成長に寄り添う社会教育団体だ。私も、富士山西麓で子どもたちのキャンプ場「富士山YMCAグローバルエコヴィレッジ」開設に携わったことがある。自然の不思議さに触れて育つ感性「センスオブワンダー」がいかに大切か、仲間たちと心と体が直接触れ合うグループワークで、子どもたちがどれほど成長するかを見てきた。

横須賀三浦エリアには、子どもたちが育つ機会とそれを支える脇役の大人がたくさんいる。たくさんの子どもたちに主役になってほしい。

大人たちの夏を待ち構えているNPOもたくさんある。ひと夏に40団体が参加する「夏の市民活動・ボランティア体験2015」もまだ続いている。足を運んではどうだろうか。詳しいご案内はサポートセンターまでお問い合わせ下さい。

（横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋　亮）